



●看護部より

こんにちは、看護師の鈴木です。

暑い日が続いておりますが、みなさま体調管理はできていますか？

今回は、夏場の「薬」と「注射薬」の管理について紹介させていただきます。

インスリンは 暑さにご注意ください!

どんどん気温が上がってくるこれからの季節、
 高温に弱いインスリン製剤の取り扱いには、十分に気を付ける必要があります。



1. インスリンをソフトケースに収納し、ハンドタオルで包みます。
2. ①のインスリンが入ったソフトケースを保冷バッグの底に入れます。凍結した保冷剤をタオルで包んで、①の上に載せます。
3. 最後に保冷バッグを密封すれば完成です。あとは日陰に保管してください。

不適切な保管方法の例

✗ **保冷剤を使わない保管**

保冷剤を使わなければ、周辺温度と並行して温度が上昇します。保冷バッグやクーラーボックスだけでは温度上昇を抑えることはできません。

✗ **凍った保冷剤をタオルで包まないで保管**

保冷剤をタオルで包まなければ、保冷剤が解凍する際に発生する結露によって水浸しになります。注入器内に水分を含んだほこりが侵入するなどの理由で故障する危険性があります。

糖尿病薬そのまま使える説明シート【こんなときどうする？編】 薬はどうやって保存したらよいの？

説明シート

飲み薬の場合

高温



高温多湿、日光を避けましょう。

多湿



くすり

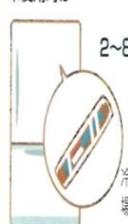


子どもの手の届かないところに置きましょう。

インスリン製剤の場合

未使用時は…

2~8℃



冷蔵庫の卵置き場や野菜室で保管しましょう。

使用中は…



室温で保管してOKです。



高温や直射日光、凍結は避けましょう。

その他の薬は…



キャップをしてケースで保管しましょう。注射針をつけたまま保管してはいけません。



高温を避けて保管しましょう。

これだけは要チェック!

薬にはそれぞれ適した保管環境があります。適切な状態で保管し、期限に注意して安全に使しましょう。

執筆者：菅原秀樹（調剤薬局ミッテル開成店）

●検査部より

検査技師の中村です。

今回は、血液検査の他に「動脈硬化」を調べる検査についてご紹介させていただきます。

動脈硬化の診断と検査

動脈硬化とは、分かりやすくいえば**血管の老化**のことです。

血管も年齢とともに傷つき、弱り、しなやかさも低下します。

血管の老化は、外からは分かりにくいため気づかず放置されてしまいます。

その結果、血管が狭くなったり、血栓ができてつまったりし、ある日突然、「心筋梗塞」や「脳卒中」と言った重大な病気を引き起こすことがあります。

**動脈硬化は初期症状がほとんどなく静かに進行します。
普段から定期的に検査を受けることが大事です！**

動脈硬化の危険因子の有無を調べるチェック項目

1. 血圧
2. 血液中の脂肪
3. 血糖値
4. 喫煙歴
5. 血液中の尿酸値
6. 身長、体重、BMI など

動脈硬化の程度を知る検査

1. 心電図検査
2. 眼底検査
3. 上腕と下肢の血圧の差(ABI)、脈拍の触れ方や血圧の左右差

さらに詳しい検査が必要な場合は、エコー検査、MRIやCTスキャン、血管造影検査などが行われます。

当院では心電図検査、ABI、頸動脈エコー検査で動脈硬化の程度を知ることができます。ご心配な方は、スタッフへご相談ください。

